

SPARC Enterprise
M3000/M4000/M5000/M8000
/M9000 サーバー用 Sun
Management Center 4.0
Version 4 アドオンソフトウェア

リリースノート



Copyright © 2009, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



目次

Sun Management Center 4.0 Version 4 アドオンソフトウェアリリースノート	1
新機能	1
サポートされるプラットフォームと環境	2
サポートされるプラットフォーム	2
サポートされるソフトウェア	2
推奨パッチ	3
ドキュメント	3
アドオンソフトウェアの入手	4
既知の問題および回避策	4
ドキュメントの変更予定	5

Sun Management Center 4.0

Version 4 アドオンソフトウェアリ リースノート

この文書には、Oracle の SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー用 Sun Management Center 4.0 Version 4 アドオンソフトウェアのリリースノートが含まれます。この文書には次の節があります。

- 1 ページの「新機能」
- 2 ページの「サポートされるプラットフォームと環境」
- 3 ページの「推奨パッチ」
- 3 ページの「ドキュメント」
- 4 ページの「アドオンソフトウェアの入手」
- 4 ページの「既知の問題および回避策」
- 5 ページの「ドキュメントの変更予定」

新機能

- SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー用 XSCF Control Package (XCP) 1100 ファームウェアが必要です。

注 - 『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M900 Servers Product Notes for XCP Version 1100』(821-2799) に、サポートされているハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアの組み合わせが記載されています。

- CMU ボードテーブルに CMU ボードタイプの列が新しく追加されました。
- IOU ボードテーブルに IOU ボードタイプの列が新しく追加されました。

サポートされるプラットフォームと環境

サポートされるプラットフォーム

Sun Management Center 4.0 Version 4 アドオンソフトウェアでは、次のシステムがサポートされます。

- SPARC Enterprise M3000 サーバー
- SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー
- SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバー

サポートされるソフトウェア

表 1 に、このリリースで必要なソフトウェアの最小バージョンを示します。

表 1 ソフトウェアの必要最小バージョン

ホスト	必要なソフトウェア	バージョン
監視対象プラットフォーム	XCP ファームウェア 注 - Sun Management Center アドオンソフトウェアの更新は、XCP ファームウェアイメージの更新に含まれています。	1100
監視対象ドメイン	Oracle Solaris オペレーティングシステム Sun Management Center コアソフトウェア SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー用 Sun Management Center アドオンソフトウェア	10 11/06 4.0 4.0 Version 4
次の両方: • サーバー • ワークステーションまたは 共通のネットワークの場所 (コンソールレイヤー)	Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS ディストリビューションは「エンドユーザーシステムサポート」以上にする必要があります) Sun Management Center サーバーコアソフトウェア SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー用 Sun Management Center アドオンソフトウェア	8 2/04 9 9/04 10 11/06 4.0 4.0 Version 4

推奨パッチ

使用しているプラットフォーム、Sun Management Center 4.0 コアアプリケーション、およびこのアドオンソフトウェアに対して、Oracle Solaris ソフトウェアのパッチや Sun Management Center のパッチが提供されている場合があります。使用しているプラットフォームのプロダクトノートや『Sun Management Center ソフトウェアリリースノート』でも、必要なパッチや推奨パッチについて説明されている場合があります。

注 – Sun Management Center 4.0 ソフトウェアとこのアドオンをインストールする前に、使用しているプラットフォームおよびオペレーティングシステムで必要なパッチをすべてインストールしてください。

サービス契約を締結している場合は、次の Web サイトからパッチをダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

ドキュメント

Sun Management Center のドキュメントは次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sun.mgmt.ctr40?l=ja>

このアドオンソフトウェアについては、『Sun Management Center 4.0 Supplement for Sun SPARC Enterprise Servers: Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers』(820-6019) を参照してください。このマニュアルは Sun Management Center の主なマニュアルを補足するものです。

アドオンソフトウェアの入手

この Sun Management Center 4.0 Version 4 アドオンソフトウェアを含む Sun Management Center ソフトウェアは、次の Web サイトでダウンロードできます。

<http://www.oracle.com/technetwork/indexes/downloads>

このページの「Servers and Storage Systems」セクションの「Sun Downloads: A-Z Listing」でこの製品を検索してください。

ソフトウェアのインストールについては、『Sun Management Center 4.0 Supplement for Sun SPARC Enterprise Servers: Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers』(820-6019)を参照してください。

既知の問題および回避策

表 2 に Sun Management Center ソフトウェアの問題と回避策を示します。

表 2 Sun Management Center の問題と回避策

CR 番号	説明	対処方法
6567937	SP フェイルオーバーが成功したあとに、Sun Management Center のアラームが [アラーム] タブに表示されない。	[アラーム表の再ロード] ボタンをクリックしてテーブルを更新し、正しいアラーム状態を表示します。
6750818	Web コンソールに物理表示が表示されない。この状況は、すべての SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 システムの Domain Config リーダーとプラットフォーム管理モジュールの両方で発生します。	このアドオンソフトウェアの物理ビューを表示するには、Java Sun Management Center コンソールを使用します。
6853141	SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーで、プラットフォーム管理モジュールのシステムテーブルに「システムが許容する電力消費」および「システムの実際の電力消費ポーリング間隔」の値が表示される。 これらの機能は SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーではサポートされていません。	これらの機能は SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバーではサポートされていません。対処は必要ありません。

ドキュメントの変更予定

この節では、『Sun Management Center 4.0 Supplement for Sun SPARC Enterprise Servers: Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers』(820-6019)の発行後に明らかになった最新情報について説明します。

表 3 ドキュメントの変更予定

場所	説明
18 ページ、「セキュリティーアクセスの設定」	<p>次の情報を追加してください。</p> <p>プラットフォーム管理者 (platadm グループ) は、ドメインオペレータ (domNadm グループ) がドメインビューテーブルで確認できるすべての監視およびアクティブ管理を、プラットフォームビューの Domain、XSB、および LSB テーブルで確認できます。</p> <p>したがって、プラットフォーム管理者 (platadm グループ) は、ドメインビューで使用されるすべての domNadm グループに所属している必要はありません。</p> <p>ただし、許容されるグループの最大数を増やすことによって、すべての domNadm グループにプラットフォームオペレータのユーザ名を追加できます。</p> <p>許容されるグループの最大数を増やすには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Sun Management Center サーバーホストのシステム仕様ファイル (/etc/system) に次の文字列を追加します。<pre>set ngroups_max=32</pre>2. Sun Management Center サーバーホストの OS を再起動します。 <p>注意: /etc/system に ngroups_max=32 を設定すると、AUTH_SYS/AUTH_UNIX の使用時に一般的な NFS サーバーがサポートするのは 16 グループのみであるため、NFS の相互運用性の問題が発生する可能性があります。他の NFS 認証機構は、「netids」をサーバー上のユーザー名にマップし、16 を越えるグループをサポートできます。</p> <p>[CR 6872614]</p>

表 3 ドキュメントの変更予定 (続き)

場所	説明
19 ページ、「プラットフォーム管理グループとビュー管理グループの設定」	<p>手順 1 に、<i>groupname</i> に設定可能な値のリストが含まれています。 リスト内の最後の項目は <i>platop</i> となっていますが、正しくは <i>platooper</i> です。 [CR 6868916]</p> <p>手順 2 に、次の注記を追加してください。</p> <p>注 - <i>/etc/system</i> で <i>ngroups_max</i> が変更された場合は、<i>ngroups_max</i> 値を超えるグループにユーザー名が追加されていないことを確認してください。</p> <p>プラットフォームオペレータは、すべての <i>domNadm</i> グループに存在している必要はありません。ただし必要な場合は、<i>/etc/system</i> の <i>ngroups_max</i> 変数を最大の 32 に設定することによって、16 グループの制限を回避できます。 [CR 6872614]</p>
36 ページ、「プラットフォーム管理モジュールについて」	<p>次の注記を追加してください。</p> <p>注 - プラットフォームの完全なアクティブ管理は、Java コンソールを使用するときのみ可能です。Web コンソールを使用して、すべての要素を監視したり、アクションやしきい値を設定したりすることができます。 [CR 6872614]</p>